授業科目名 <英訳>	美学美術史学(講読) Aesthetics and Art History (Seminars)	担当者氏名	大阪大谷大学　文学部　講師 田中　健一 人文科学研究所 助教　　高井　たかね

配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木2	授業形態	講読

題目	和漢書講読

[授業の概要・目的]

日本・東洋美術史学では、作品や作者を研究する際に様々な文献も読むことがしばしば要求され、時には活字に翻刻されていない史料にも目を通さなければならない。この授業では、変体仮名や漢文体で書かれた史料を読むための基礎的な能力を養うことを目的とする。

[授業計画と内容]

以下の内容に従い授業を進める。
〔前期〕
平安～室町時代の主要な絵巻作品から数点を選定し、毎回、参加者全員で詞書の釈文を作成する。変体仮名に慣れるまでは、一文字ずつ字母も含めて確認していく。そのため、一回の授業で読み進めるのは数行程度のペースになると思われるが、これを数回行った後は、分量を増やす予定である。

取り上げる作品としては、『信貴山縁起絵巻』、『当麻曼荼羅縁起絵巻』などを予定しているが、受講生の関心も勘案する。
また、授業の中で美術史学に関する基本図書も紹介したい。
〔後期〕
※清、李漁『閒情偶寄』「器玩部」をテキストとする。
今年は器玩部・制度の序を読んだあと、炉瓶から読み始める予定。
※語法の確認をしながら、漢文読解の訓練をおこなう。
※出席者に訓読および現代語訳をしてもらう。担当者を決めないので、全員毎回の予習が必要。
※毎回の進度は、初めは半葉程度になるかと思われる。これが２，３回続くと、一回に一葉は進むようになる。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・基準]

前期は、毎回の授業における読解練習（50%）、ならびに学期末の試験（50%）により評価を行う。

後期は、授業時の訓読・現代語訳のほか、出席も考慮する。

[教科書]

前期：「字典　かな」笠間書院
後期：漢和字典（テキストはコピーを配付）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））

毎回、かなりの量のテキストを読むので、参加者には相当程度の予習が要求される。

※オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。